

## 第4章 スマートプラン2014の実施にあたって

## 第4章 スマートプラン 2014 の実施にあたって

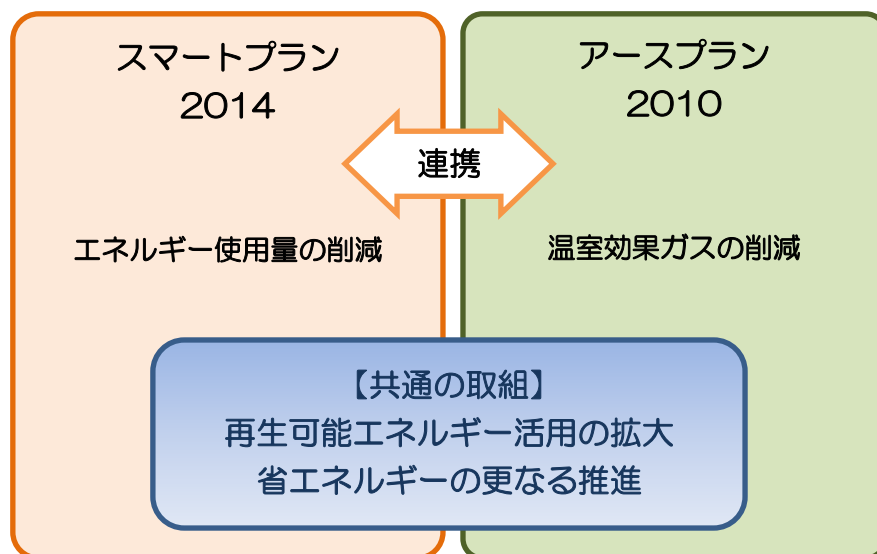
スマートプラン 2014 の実施にあたっては、当局の事務事業活動から発生する温室効果ガスの削減を目標とした地球温暖化防止計画「アースプラン 2010」との連携を図っていく。

また、オリンピック・パラリンピックの開催を見据えた対応をするとともに、エネルギー管理システムの進化・発展を促進させていく。さらに、新しい技術開発を積極的に推進するとともに、エネルギーに関する状況の変化への柔軟な対応を行いながら本プランの実現に努めていく。

### 1 「アースプラン 2010」との連携

「アースプラン 2010」は、当局の事務事業活動から発生する温室効果ガス排出量を、2020 年度までに 2000 年度比で 25%以上削減することを目標とした、下水道事業における地球温暖化防止計画である。アースプランは、温室効果ガス削減のため、徹底した省エネルギーや再生可能エネルギーの活用などに取り組んでいくこととしており、エネルギー使用量を削減する「スマートプラン 2014」と共通する取組が多い。しかし、アースプランでは、汚泥焼却時の燃料使用量を増加させ、焼却温度を上げることで温室効果ガスを削減する取組など、本プランの目標と異なる取組を実施する場合もある。そのため、燃料増加を伴わない温室効果ガス削減の技術の開発なども進めつつ、エネルギー削減と温室効果ガス削減の優先度を考慮しながら、両プランの連携を強化して、それぞれの目標達成に向けた取組を効率的に進めていく。

○図表 - 31 アースプラン 2010 との連携イメージ



## 2 2020年東京オリンピック・パラリンピックへの対応

2020年に向けて、エネルギーに配慮した環境先進都市としての東京のまちづくりが世界から注目されており、オリンピック・パラリンピックの開催都市としてふさわしい「東京」を発信する絶好の機会である。

そのため、オリンピック・パラリンピック開催を契機として、下水道資源を活かした再生可能エネルギーや省エネルギーの取組を積極的に進め、都民のみならず、世界中から来訪するアスリートや多くの観光客が東京の環境の素晴らしさを実感できる都市づくりを目指していく。

## 3 エネルギー管理システムの進化・発展

本プランでは、水処理から汚泥処理までの一連の処理工程を通じたエネルギーの最適化や、より広域的な視点から複数の施設間で運転管理の効率化などを図るエネルギースマートマネジメントを新たに導入した。

将来的には、エネルギースマートマネジメントの取組範囲を、水再生センターからより広範囲に拡大し、流域単位や下水道事業全体を統合管理していくなど、エネルギー管理を進化・発展させていく。

## 4 関連団体と連携したエネルギーに関する技術開発の推進

エネルギーに関する技術開発は、当局のみならず民間企業や監理団体など（東京都下水道サービス株式会社、東京下水道エネルギー株式会社）の関連団体と連携して進めていく。

そのためには、当局から関連団体へのエネルギーに関するニーズの発信、関連団体とのエネルギーに関する技術開発、また開発された新たな技術の積極的な採用を図っていく。

このように、東京から新しい技術を先導することにより、日本の下水道界を牽引していく。

## 5 下水道事業を取巻くエネルギー状況の変化への適切な対応

世界のエネルギー動向や国のエネルギー政策の方向性、東京都におけるエネルギーに関する方針など、下水道事業を取巻くエネルギー状況の変化を見据え、柔軟かつ適切に対応していく。